

平成 29 年度

第 62 回 長野県中学校連合教科研究会

# 国語科

I	研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	実践発表校一覧、指導者名・・・・・・・・・・・・・・・・	1
III	実践発表と協議内容・・・・・・・・・・・・・・・・	1～4
IV	本年度研究会の反省と来年度の方向・・・・・・・・	4～5
V	あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・	5

## I 研究テーマ

「明日に生きる国語の授業」

## II 実践発表校一覧、指導者名

- 第1分科会 指導者 古旗 明 先生（北信教育事務所指導主事）  
世話係 鎌倉 大和 先生（信州大学教育学部附属長野中学校）
- 第2分科会 指導者 久保 貴史 先生（東信教育事務所指導主事）  
世話係 小沢正太郎 先生（信州大学教育学部附属松本中学校）
- 第3分科会 指導者 小林 洋一 先生（南信教育事務所指導主事）  
世話係 三石 啓介 先生（信州大学教育学部附属松本中学校）

### 【第1分科会】

発表順	地区	番号	校名	実践発表内容
1	長野上水内	7	北部中	「星の花が降る頃に」：1年
2	長野上水内	8	裾花中	「言葉の力」：2年
3	長野上水内	32	附属長野中	どうする!?幻の魚クニマス：1年
4	安曇野	3	豊科北中	「シカの『落穂拾い』」：1年
5	飯水	3	城北中	新一年生へ中学校の魅力をわかりやすく説明しよう：1年
				実践発表者5名、その他4名 計9名

### 【第2分科会】

発表順	地区	番号	校名	実践発表内容
1	松本	14	鉢盛中	四字熟語：1年
2	上小	1	東部中	「故事成語活用字典」の検討会を行い、自分の文章を見直そう：1年
3	長野上水内	23	信州新町中	いにしえの心を訪ねる「扇の的ー『平家物語』から」：2年
4	長野上水内	21	鬼無里中	いにしえの心を訪ねる「仁和寺にある法師」：2年
5	上小	11	第六中	いにしえの心を訪ねる「仁和寺にある法師」：2年
				実践発表者5名、その他4名 計9名

### 【第3分科会】

発表順	地区	番号	校名	実践発表内容
1	佐久	1	川上中	詩の世界：1年
2	安曇野	7	明科中	詩の世界：1年
3	更埴	2	戸倉上山田中	「少年の日の思い出」：1年
4	上伊那	12	東中	「少年の日の思い出」の結末における「僕」の思いをとらえる：1年
5	松本	25	附属松本中	思うに希望とは……：3年
				実践発表者5名、その他4名 計9名

## III 実践発表と協議内容

### 【第1分科会記録】

#### 1 長野市立裾花中学校 仙波 歩 先生の実践

「随筆教材を随筆的に学びことを通して言葉に対する考えを深める」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・仙波先生の教材に対する熱意を強く感じた。単元を通し、終末に「自分の言葉（考え）」を求めるのか、導入で求めるのか、様々な展開が考えられる授業であるため、さらなる追究が期待できる。

(2) 指導者からのご指導

- ・ワークシートやマップにまとめるという工夫がよい。「考えの形成」に重きを置くのであれば、教科書の本文をどう捉えるかは全体で扱い、その後、個別に追究する展開も考えられる。

2 信州大学教育学部附属長野中学校 坂口 香織 先生の実践

「文章をどのようにとらえて精査・解釈したのかを振り返ることで、自分の考えを確かなものにする力を高める指導の在り方」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・スケールが大きい授業である。資料を用意し、生徒の思考を広げ、考えを広めていく工夫がよい。
- ・今後の発展として、資料を自分で見つけ、活用していけるようになるとよい。

(2) 指導者からのご指導

- ・生徒と筆者の結論は同じところに向かっているので、筆者の結論について生徒が考えをもっていか、資料を使って筆者の結論をたどっていくのかの捉えを整理するとさらに可能性が広がる。

3 安曇野市立豊科北中学校 住吉 彩花 先生の実践

「友とのかかわりの中で、意見の根拠を深めていく手段と教師の役割とは」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・文章ではなく、図や表から入り、考えていく展開がおもしろい。「考察」や「分かったこと」から入り、図や、表との繋がりを考えていく展開にもチャレンジして欲しい。

(2) 指導者からのご指導

- ・教科書に載っている教材としての分析だけではなく、原文をしっかりと分析し、その違いや共通点に着目し、教材分析をしている姿がとてもよい。その分析を生徒がやってもおもしろい。

4 飯山市立城北中学校 関口 祐子 先生の実践

「生きて働く書くことの学習」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・書くための「アイテム」の選定がよくできていて、**付**つける力に繋がっている。また、振り返りの時間がしっかりと取れていて、1時間やってきたことを見返せるということは大きな力になる。

(2) 指導者からのご指導

- ・相手意識（必要感）がある単元展開になっていてよい。3年間の系統性を考え、どの「アイテム」をどの時期に使うことがつくれる力に繋がっていくか、更に考えていきたい。

文責：信州大学教育学部附属長野中学校 鎌倉 大和

## 【第2分科会記録】

1 松本市山形村朝日村中学校組合立鉢盛中学校 松林 圭祐 先生の実践

「生徒を軸とした問いの立て方について」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・最初に大きな問いを投げかけ、生徒とのやり取りの中で問いを焦点化していったり、初読の感想やつぶやきを教師が整理したりすることで、問いを定めていくのはどうか。

(2) 指導者からのご指導

- ・学習問題は願いの共有化であり、学習課題はその解決のための方法である、ということ意識しながら授業を組み立てること。振り返りでは方法知と内容知をはっきりさせ、生徒自身に自覚させることが重要。

2 東御市立東部中学校 高橋 芽衣 先生の実践

「観点の決めだしについて」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・生徒同士で作品を評価しあう際に、生徒が互いの作品の良さを認め、課題点を出し合って高め合

えるような場にするために、どんな観点を設けるのがよいか。

(2) 指導者からのご指導

- ・言葉の使い方などの「形式的な観点」と、「内容的な観点」大きく二つの観点から決めだしていくとよい。また、作品を作っていく段階から意識させていき、それらを評価の場で観点として設けるのはどうか。

3 長野市立信州新町中学校 今井 悠太 先生の実践発表

「古典における心情読解、内容把握の手立てについて」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・古典に親しみをもちながら心情読解をするための手立てとして、朗読劇やグループによる心情読解の意見交換を設けたことは有効であったか。

(2) 指導者からのご指導

- ・教科書教材の前後の場面を、現代語訳でもいいので資料として提示することで、より深い学びや、生徒が作品に入り込んでいく姿につながっていく。

4 長野市立鬼無里中学校 宮澤 朝子 先生、

上田市立第六中学校 佐藤 香織 先生の実践

「古典に親しむための導入、単元設定はどうあったらよいか」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・「兼好法師に手紙を書く」「法師にアドバイスをする」という単元を通した言語活動を設定したことで、内容読解だけにとどまらず、自分の考えを加える活動にもつながった。
- ・徒然草の他の章段を扱うことで、作品や作者に生徒の興味関心を向けさせ、学習意欲を高めることができた。

(2) 指導者からのご指導

- ・古典教材の特徴の一つとして、兼好法師や松尾芭蕉、平家物語の那須与一など、魅力的な人物が挙げられる。それら人物に意識を向け、追究していくことが古典をより身近に感じる展開作りに有効なのではないか。

文責：信州大学教育学部附属松本中学校 小沢 正太郎

【第3分科会記録】

1 川上村立川上中学校 遠山 恒輝 先生の実践

「詩の読解指導のあり方について」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・詩はその一語一語から、生徒たちなりの解釈ができ、生徒たちなりのその詩の世界を感じられる。一方で最終的に「この詩はこういうことを伝えているんだよ」というようなまとめがないと不安になる生徒も多い。

(2) 指導者からのご指導

- ・詩の解釈を一つに収束してしまうのではなく、生徒一人一人の解釈を大切にしたい。その際、その根拠と理由を明確にさせることを授業の中で大切にしたい。

2 安曇野市立明科中学校 武田 純志 先生の実践

「詩の特徴的な表現の解釈の仕方について」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・4連構成の「魚と空」を4コマ漫画にし、友との比較から特徴的な表現の解釈の仕方について考えを交流させた。

(2) 指導者からのご指導

- ・4コマ漫画を描いて比較したことにより、言葉や表現から想像した情景の違いが可視化された。表現の効果を考える場面では、その表現がある場合とない場合との比較からその効果を考えることもできる。

3 千曲市立戸倉上山田中学校 小山 ひかり 先生の実践発表

### 「生徒が主体的に読み深めていく問いの立ち上げ方について」

#### (1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・自分から追究したくなる問い（魅力と必要感を感じられる単元を貫く問いや学習問題）は、どうすれば生徒の中に立ち上がるのか。出会いの場面で突然問いは立ち上がらない。そこで感じた疑問やひっかかりを、生徒自身が大切にしながら追究を進めていける単元展開の中で、それらは問いになっていく可能性があるのではないか。

#### (2) 指導者からのご指導

- ・無目的な場面ごとの読解ではなく、子どもの中から立ち上がる問いが単元の中に位置づけられるとよい。すべて子ども任せではなく、教師のその単元に寄せる願いとのすり合わせが必要な場合もある。

### 4 駒ヶ根市立東中学校 井出 峻太 先生の実践発表

#### 「キーワードを窓口に作品全体の読みを深めていく単元展開について」

#### (1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・作品の前話だけを全員で読み、結末を生徒たちが予想したうえで展開部分を読み進めていく単元展開を仕組んだ。暗い結末に多くの生徒が予想とのずれを感じ、そこから学習問題を立ち上げることで、生徒たちの主体的な読み解きへとつなげていくことができた。

#### (2) 指導者からのご指導

- ・予想とのずれから出発する単元展開が魅力的である。そこを出発点にして学習問題を立ち上げることで、作品の各場面へと立ち返りながら読むことの必要感が生まれる。

### 5 信大附属松本中学校 三石 啓介 先生の実践発表

#### 「国語教育の哲学教育の連携の可能性について」

#### (1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・言葉や概念そのものを題材にし、サークルミーティングによって、生徒たちが無意識のうちにもっていたその言葉などに対する定義やイメージを見つめ直していくことができた。

#### (2) 指導者からのご指導

- ・「言葉による見方・考え方」という視点で単元を立ち上げ、教材文にある言葉と自分の生活にある言葉とを繋げながら、自分の考えを深めていける単元展開だったのではないか。今後は「対話」の中での生徒の学びをどう位置付け、評価していくのかを模索していきたい。

文責：信州大学教育学部附属松本中学校 三石 啓介

## IV 本年度の反省と来年度の方向

項 目	内 容
○研究テーマについて	・レポート発表のためのテーマではなく、日々の実践において生徒が輝く明日が迎えられそうなテーマとなったという声をいただいた。また、「明日に生きる国語の授業」を意識しながら授業ができたという声もいただいた。来年度も同じ研究テーマを据えていきたい。
○本年度の研究の成果と来年度の研究の方向について	・今年度の課題を生かして、来年度も研究を行っていきたいという声をいただいた。来年度の研究の方向は、今年度と同じ方向でいきたい。
○研究会当日の運営について（希望者による実践発表、分科会やワークショップの在り方等）	・実践発表は、1分科会につき4本くらいが適当である。 ・午前の分科会も午後のワークショップも、もう少しゆっくり意見交流できればよかったという声はあったものの、参会の先生方からは、おおむね会のもち方はとてもよかったと言っていた。来年度も工夫していきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践発表を希望制にしたことで、初任者の先生方を中心に、参加しやすかったと言っていた。実践発表がなくても、悩みを相談できる機会になったというご意見もあった。来年度も継続したい。</li> <li>・指導者の先生が出された発言を板書し、可視化してくれたことで、若い先生方も含めて意見を共有しやすかった。</li> <li>・ワークショップは大変有意義だった。教材研究の仕方、素材の価値などを学ぶことができた。内容は、テスト作りや教科合同での教材研究、ベテランの先生からの授業提案など、さらに工夫の余地がある。</li> </ul>
○研究会までの運営について（参加費、メール送付、Web ページからの申し込み等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡がある度に、早めに連絡できるので、メールの方向でよい。</li> <li>・発表時間を発表者一覧表等に予め書いてほしいというご意見をいただいた。今年度から司会計画がないため、発表者の先生方を不安にさせてしまった。来年度は何らかの書面でお知らせしていきたい。</li> </ul>
○その他、運営全般にかかわって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おおむね、実りある 1 日になったとのご意見をいただいた。来年度も魅力ある会にするため、より工夫していきたい。</li> </ul>

## VI あとがき

お忙しい時期に、県下各地からたくさんの先生方にお集まりいただき、生徒の学ぶ様子を基に指導の在り方について熱心に討議がなされ、多大な成果を収めることができました。

終日にわたって全参加校の研究内容と今後の方向についての的確なご指導、ご助言をしてくださいました、指導者の古旗 明 先生、久保 貴史 先生、小林 洋一 先生、午後のワークショップで講師としてお世話になりました西 一夫 先生、小林 比出代 先生に心より感謝申し上げます。そして、お忙しい中、日々の実践について語り、研究会を実りあるものにしてくださった参会の先生方に心から感謝申し上げます。

来年度も多くの先生方に参加いただき、国語教育の在り方について熱心な討議がなされることを願い、また、先生方の今後の一層のご活躍を祈念申し上げ、御礼とさせていただきます。ありがとうございました。

委員長 坂口 香織  
副委員長 三石 啓介